

## 融雪後のほ場管理について

### 1 置床鎮圧でのかん水について

置床鎮圧を行った場合、箱設置前後のかん水で2つのパターンがあります。

表1 置床鎮圧でのかん水パターン例

区分	箱設置前	箱設置	箱設置後
パターンA	1,000ℓ		500ℓ
パターンB	なし		1,500ℓ

パターンAの場合は従来のかん水量と変わりません。

パターンBの「箱設置前にかん水しない場合」は、「箱設置後」のかん水量が大幅に増えます（表1 パターンB）。

パターンBの場合に、かん水量が少ない場合は、出芽までに箱土が乾き、出芽が揃いにくくなることも考えられますので必要量をかん水してください。

表2 置床鎮圧でのかん水パターン別のメリット・デメリット

区分	メリット	デメリット
パターンA	地温の確保が容易 出芽が揃いやすい。	箱設置時に歩きにくい。 箱裏に土が付きやすくなる。
パターンB	箱設置が容易 箱下に土がつきにくい	日照がない日に箱設置を行った場合、地温の確保が難しい。 その場合は出芽が揃いにくい。

### 2 根切りネットはいらない？

置床の鎮圧を行った場合の「根切りネット」は、「箱をはがす時に箱下についている土を除く」事が目的となります。

したがって、「土が箱の底につかない」土壌では「根切りネット」は必要ないと考えられます。

しかし、土壌によっては「根切りネット」があった方が作業効率が高くなる場合も考えられます。

箱設置前のかん水の有無、「根切りネット」の必要の有無は土壌や碎土による影響が多いので、異なるパターンのハウスを設けて、比較する事をお勧めします。

### 3 乾田化の促進

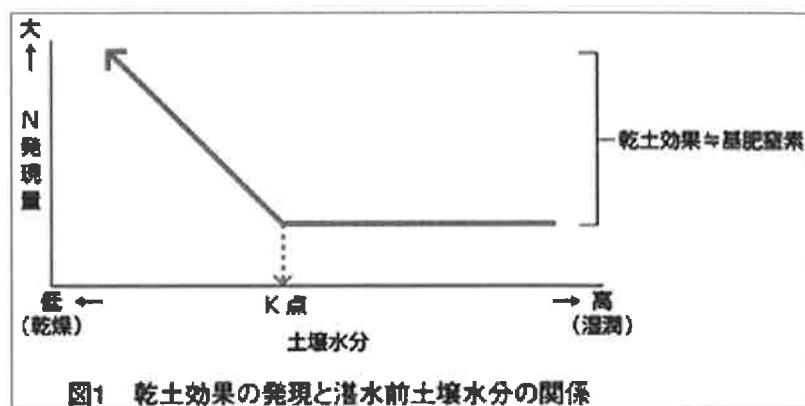
重粘土質の土壌では、表面が乾いていても土壌中は乾燥が不十分であることもよくあります。

また、部分的に滞水が見られる場合もあります。

昨年秋にほ場の手入れができなかった場合は、ほ場に入れるようになったら、直ちに溝切り・サブソイラーの施工を行い、ほ場の乾燥に努めましょう。

ほ場を乾燥させる事により、有機態窒素が無機化して、稲の窒素吸収が早くなり、初期茎数が確保しやすくなります(図1)。

また、根張りが良くなることにより、養分の吸収が良好になります。



### 4 畦の補修のすすめ

昨年・一昨年は6月に畦畔から漏水して、入水を繰り返したほ場が見受けられました。

6月の水温が低かったため、入水を繰り返したほ場では初期茎数が少なく、生育も遅れました。

また、再入水などにより除草剤の処理層を壊すこともあり、除草剤の効果を低下させます。

畦塗りは、土壌水分が低くなりすぎると畦塗りを行っても効果はありません。ほ場に入れる状態になり、なおかつ、土壌が湿っている状態で行ってください。